

check ひきこもり相談窓口ができました

ひきこもりに悩まれている方やそのご家族が相談できる窓口ができました。

茗荷谷クラブという1987年から活動している実績のある団体が利用できます。

「専門の相談・カウンセリング」のほか「講演会・家族会」「居場所の提供」、
「就労・社会参加支援」などのメニューがあります。

最初のご相談は千代田区保健保健福祉部福祉総務課が窓口となります。

☎ 03-5211-3593 (月曜日～金曜日 午前9時～午後5時)

✉ fukushisoumu@city.chiyoda.lg.jp

check 九段こども広場・まちかど広場がなくなります

九段会館前の子ども広場が2022年11月末をもって使えなくなります。この広場は、銀行の跡地を2019年3月から無料で借りていて、区が2億円かけて広場として使えるように整備したものです。区内でも数少ないボール遊びができる貴重な広場で、九段まちかど広場も喫煙トレーラーを置いたりPCR検査場として活躍してきました。

2023年4月までに元の形状に戻して土地を持ち主の銀行に返します。保育園の園庭も子どもの遊び場も全く足りていないので、区はさらに検討をすすめなければなりません。



ご意見・ご相談お気軽にお寄せください

*携帯メールはこちら
yapparihayanehayaoki@softbank.ne.jp

*PCメールはこちら
ryokoiwas@gmail.com

*お手紙はこちら
〒102-8688
東京都千代田区九段南1-2-1
千代田区役所 7F

*お電話はこちら
Tel: 080-3150-2090
*ファックスはこちら
Fax: 03-3263-9255



岩佐りょう子プロフィール 立憲政策フォーラム

千代田区議会 副議長

所属委員会

議会運営委員会、保健福祉委員会、公共施設調査整備特別委員会

議会のあり方に関する調査特別委員会

LGBT自治体議員連盟、手話推進議員連盟所属

岩佐りょう子は学生の職場体験やインターンを受け入れています。日数などは応相談です。ご興味のある方はご連絡ください。

小学生から読める! 忙しい朝でも読める!

千代田区議会議員 岩佐りょう子の

千代田区議場
超

かんたん区政報告



- *令和4年度予算が決まりました
- *今さら人には聞きにくいお役所カタカナ言葉
- *ひきこもり相談窓口ができました
- *九段こども広場がなくなります

check 令和4年度の予算が決まりました

令和4年度の予算の目玉は、DXとウォークابل、そしてコロナ対策です。

千代田区DX(デジタルトランスフォーメーション)は、区役所の仕事をデジタル化し、スマホ1つで区役所の手続きができるようにするための取り組みで予算は17億6,826万円です。

区役所の仕事やデータの量は大変多く、情報漏えいにも気をつけなければならないため、すべての手続きをオンラインでできるようになるには何年も必要です。

令和4年度は、区役所のデータを電子化しながら「保育園との連絡をオンラインで」できるようになり、保険料や税金などをクレジットカードなどで払うことができるようになります。

また、マイナンバーを持っていれば簡単にいろいろな手続きができるマイナポータルサイトをもっと使いやすくします。

ウォークابلなまちづくりは、歩きやすく居心地の良いまちにするため、バリアフリーはもちろん、道路や路地のスペースを子どもが遊べるように工夫したり、ビルの合間にある公開空地をもっと多くの人が楽しめるスペースにするための検討をします。予算は3億9,115万円です。

もっと詳しく

令和4年度は一般会計予算691億7,736万円と過去最高の予算となりました。区民一人あたりに換算すると103万1,743円で23区では一位です。(100万円を超えるのは千代田区だけ)。歳入についてもコロナ禍による影響は小さく、特別区税4.0%増を見込んでいます。予算審査においては、まちづくりにおける合意形成について多くの意見が出ました。特にHPや区報を中心とした区の情報発信については様々な手法の検討が必要だと思えます。



今さら人には聞きにくいお役所カタカナ言葉、解説します

予算の説明には、「行政サービスのデジタルシフトのニーズが高まっているので、ワンズオンリーなスマート窓口の実現を目指してオンライン申請のためのポータルサイトをつくります」。「2050ゼロカーボン」「ウォークابل、まちなかにリビングを」とカタカナ言葉がたくさん出てきました。そこで予算の説明に使われたカタカナ言葉の説明を特集します。

DX デジタルトランスフォーメーション（予算額 17億6,826万円）

英語で書くと「Digital Transformation」ですが、略すと「DT」ではありません。TransformationのTransは英語圏で習慣的に「X」と略すので、「Digital X-formation」となり、「DX」と呼ばれるようになります。

単にデジタル化（電子化）するだけではなく、その結果今までの課題が解決し便利になることまでを指す言葉です。区役所では、いろいろな手続きがスマホ一つで簡単にいろいろな手続きができるようになったり、「もうすぐ予防接種の季節ですよ」などそれぞれに合ったお知らせをできるようなサービスを目指します。



eスポーツ（予算額 735万円）

「eスポーツ」とは「エレクトロニック・スポーツ」の略で、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツと呼んでいます。要はゲームなのですが、共通のルールを決めて人と競技をして成績を追及することでスポーツの仲間と考えます。囲碁や将棋などを「マインドスポーツ」、自転車の競技を「モータースポーツ」と言いますがゲームも対戦するという点が同じです。スポーツの仲間入りというわけです。

千代田区では、障害者スポーツ体験のイベントにeスポーツ種目を追加します。

一般社団法人日本eスポーツ連合 HP 参考

ペアレントメンター（予算額 9,965万円子ども発達支援センター）

ペアレント・メンターとは、発達障害のある子育てをしたことがある経験者でいろいろな相談を受けられるようトレーニングを受けた人を指します。同じように発達障害のある子どもをもつ親に対して、よりそったサポートを行い、地域で生活することについての便利な情報を共有することができます。

フレイル対策（予算額 923万円）

「フレイル」とは、要介護になる前の、「なんだか年取っていろいろ弱ってきたわあ」と感じる状態をいいます。疲れやすい、体重が落ちてきた、筋力が下がってきた、などがその症状です。簡単に言えば老化です。フレイルを予防するには適度な運動と栄養バランスの取れた食生活、そして社会活動への参加が重要なので、千代田区では、シルバートレーニングスタジオ（体操教室）やいろいろな講座をもうけています。



ゼロカーボン（予算額 1億9459万円）

地球温暖化の大きな原因となるCO₂の排出をゼロにしよう、と目指したのが「ゼロカーボン」です。脱炭素です。ほかに、「カーボンニュートラル」「ゼロエミッション」など様々な呼び方があります。この場合の「ゼロ」は、CO₂の排出量から、森林などによる吸収量を差し引いた実質ゼロを意味します。千代田区では再生エネルギー電力への切り替えや電気自動車をすすめ、岐阜県高山市や群馬県嬭恋村とのカーボンオフセット（森林をたくさん育ててCO₂を吸収してもらい、区内で出したCO₂と差し引きすること）を行っています。

番外編 カタカナではないけれど、区役所がよく使う言葉解説「数字版」

8020（予算額歯科検診4,623万円）

日本歯科医師会が推進している「80才になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動です。「ハチマルニイマル」と読みます。20本以上歯があれば、健康な食生活ができるといわれています。千代田区では定期的に無料で歯科検診を受けることができますが、毎年10%くらいの人しか受けていません。検診が受けられる指定の歯医者さんは181か所ありますので、ぜひ検診を受けるようにしてください。

8050問題（予算額1,039万8千円）

こちらは「80代の高齢の親と50代の引きこもりの子ども」を指す言葉です。引きこもりは当初は若者の問題とされていましたが、引きこもり期間が長くなり徐々に高齢化して子どもが50代、親が80代となってしまったケースが増えてきているのです。千代田区では、新たに引きこもりの方のご相談を専門に行う窓口を設置しました。